

色彩・感性・装い ~ 眼で見て、心で感じる科学

関西大学総合情報学部 浅野晃ゼミ

教授 浅野晃 2024年度ゼミ生 4年生14名, 3年生12名



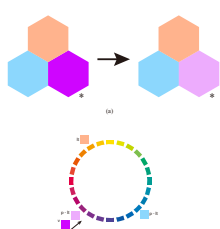
学生の興味関心を、教員との対話で「育てて」、卒業研究のテーマとしています。

■ 動的な配色への感性

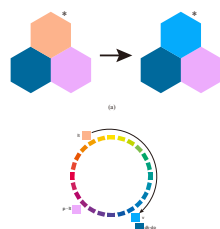


調和する配色と、不調和から調和に動的に変化する配色を、ランダムに呈示

■ 初期の実験(卒業研究)では



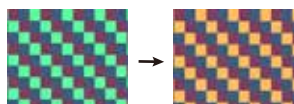
動的配色のほうが調和感が上がる例



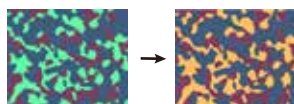
動的配色のほうが調和感が下がる例

■ その後の研究で (名城大学・川澄未来子先生との共同研究)

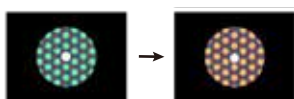
右側の変化(→)のほうが、調和感がより大きく向上する



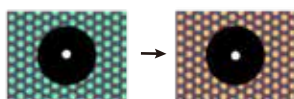
規則的・直線図形よりも、



不規則・曲線図形



視点を含む中心視での変化よりも



視点を含まない周辺視での変化

■ 「装い」や美術に関する研究

過去には繊維製品に関する卒業研究があり、最近装い・美術に関する卒業研究が出てきました

■ 口紅の色の選択と心理状況の関連性



公的/私的状況, 気分のポジティブ/ネガティブで, 口紅の色/ツヤの嗜好がどう変わるかを調査した

公的な状況では気分による差が小さいが私的な状況では気分による差がはっきりする傾向があった

■ 「文理融合的」研究

「文系的」な興味を持っているゼミ生も多いです

■ 日本と中国で、「赤/紅」、「青/藍」という漢字に対して思い浮かべる色に違いがあるか



両国の協力者に、

[1] 5つの色相から「赤」で思い浮かべる色をひとつを選んでもらう



[2] 選ばれた色相について、彩度・明度を変えたものを呈示して、「赤」で思い浮かべるものを選んでもらう

「紅」についても同じ調査を行う
「青/藍」の組についても、ブルーの色見本で同じ調査を行う

日本では「赤/青」は「紅/藍」よりも彩度が高い

中国では「紅/藍」は「赤/青」よりも彩度が高い

両国とも、色を表すのに日常用いる字のほうが、彩度の高い色が思い浮かぶ

■ 色彩とユーザーインターフェース

色彩を「使いやすさ」に役立てることに興味をもった卒業研究です

■ アイコンの識別性における色彩の効果



向きを変える 色を変える (zoom)

色を変えた場合のほうが、アイコンを見つけるのに「迷う」人が多い



このQRコードで、浅野ゼミのウェブサイトへアクセスできます。これまでのすべての卒業研究について、簡単な要約がついています。

このQRコードで、浅野のウェブサイト・Facebook/twitterアカウントなどにアクセスできます。

E-mail: a.asano@kansai-u.ac.jp

